

ところざわの暮らし 今昔

秋の収穫儀礼—イノコとトーカーヤ—

所沢市は、かつては農業の盛んなところでした。昭和30年代くらいまでは、市街地を抜けると、台地には畑が一面に広がり、雑木林がたくさんあって夏から秋にかけては濃い緑一色でした。台地や丘陵に挟まれるように田んぼが連なっていました。都市化した現在の景観を見ると、時代が甚だしく移り変わった感じがします。

秋の収穫を祝う行事にイノコとトーカーヤという行事がありました。イノコは、もともと旧暦10月初亥の日に行われる稲の収穫を祝う行事。トーカーヤは、旧暦10月10日に行われ、稲や畑作物の収穫、麦蒔きじまいを祝います（新暦では11月の行事）。

イノコもトーカーヤもよく似ている行事で、田の神が山などに帰る日との伝承が全国的にあります。イノコは関東以西の西日本で、トーカーヤは関東地方北西部から甲信越にかけての内陸部に集中して分布します。この両者が市内には混在して伝承されています。しかし、両者を同じ日に行うことはなく、11月9日がイノコで10日がトーカーヤと区別しているのです。この時季、所沢では稲の刈り上げと麦蒔き終了の折り返し目にあたります。

トーカーヤには、子どもたちが夜暗くなってから、ワラデッポウ（藁鉄砲）で畑の周りや家の庭、あるいは田んぼの周りを叩いて回りました。

藁鉄砲は、ミョウガの茎を新藁で包み、縄で透き間なく巻いて作ります。

地面を打つといい音がし、子どもたちは「トーカーヤ、トーカーヤ、十日のぼた餅生でも食らう」「トーカーヤ、トーカーヤ、イノコのぼた餅生でもいい。」などと歌いながら、元気よく叩いて回りました。夜のしじまをトーカーヤの藁鉄砲の音が響き渡りました。（大館）

ワラデッポウ



ところざわの町内会めぐり

【柳瀬地区・城自治会】

～歴史ある遺跡と伝統を守り伝えるために～

城自治会は、柳瀬地区の南側中央に位置し、東側に関越自動車道、南側に武蔵野線があり、西側は東所沢地域に接しています。現在の世帯数は178世帯で、市街化調整区域のため急な会員数の増加は見込まれない地域です。

自治会の主な事業は、環境美化運動、盆踊り、防犯活動、自主防災訓練、体育祭、文化祭などです。特に防犯活動では、安全・安心な学校と地域づくり推進支部・青少年を守る会・防犯協会との共催による柳瀬地区防犯大会に、城自治会からも多数の会員が参加します。毎年9月に実施している体育協会柳瀬支部と柳瀬中学校との共催による合同体育祭にも積極的に参加しています。4Hクラブや農業後継者協議会も、柳瀬地区の文化祭で野菜の直売会に参加するなど、さまざまな事業に積極的に参加しています。

城地域には、小田原・北条氏照の持ち城であった滝の城跡（埼玉県指定史跡）をはじめとする多くの遺跡や史跡があります。

滝の城跡は、総面積約8万7千平方メートルで、南に水田跡（現在は滝の城社公園）があり、約25メートルの断崖に臨み本丸、北部に二の丸、三の丸、三の丸、物見やぐら跡、土壘、空堀が残り、自治会ではその保存に取り組んでいます。

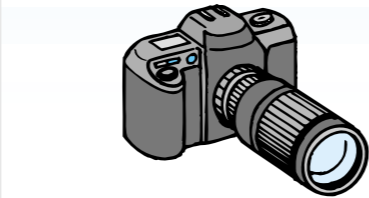
このように城自治会には、歴史のある遺跡や史跡とともに地域住民の活動を支えるふれあいや語り合いが残り、これからそのよい伝統を子や孫にも伝えていきたいと考えています。



柳瀬地区防犯大会



▶平和への願いを込めて、所沢中学校の生徒たちが奏でるハンドルの音色が、会場中に響き渡りました。「所沢市平和講演会」の26日（金）/市民文化センター・三コープ・小ホール



▶関東甲信越から集まった精鋭チームがしのぎを削った「インディアカ大会in埼玉」。（撮影/市民カメラマン・松崎 満）9月4日（日）/市民体育館

街の写真館



▶元元よくピッチを駆け回るサッカー少年たち。夢はJリーガー！「所沢市少年サッカー大会」。（撮影/市民カメラマン・西山元博）9月3日（土）/北中運動場

はつらつと 野老 子

「自然」が子どもたちに教えてくれること

寒川 光昭さん（並木在住）



「土筆ってかわいいね。」「せみが羽化しているよ！」「これは何の昆虫の卵かな？」「落ち葉ってフカフカで気持ちいいな。」「子どもたちの歓声が、四季折々の雑木林から、野山から聞こえます。今年の夏、『ナチュラリックラブ』のキャンプにお邪魔して、自然観察インストラクターの寒川光昭さんにお話を聞きました。

『ナチュラリックラブ』とは、自然観察を柱に、学年が異なる子どもたちのグループで、遊びを通して豊かな心・自然を愛する心を育むために、年間を通して行われている中央公民館の行事です。

寒川さんは、埼玉県が自然保護『その普及啓発のために認定した『彩の国ナチュラリスト』であり、子どもたちに身近な自然との触れ合いを通して、自然の大切さ・生命の大切さを伝えていきます。

「遠い山や川まで出かけなくても、所沢近郊には雑木林や湿地などが残っています。また、近所の



楽しいキャンプファイヤー

神社やお寺、公園等、子どもたちだけで行ける場所でも、小さな自然や生きものに出会えます」と、身近な自然の再発見を提案しています。

小学校の先生を務めてきた寒川さんの自然観察は、単に生きものを見たり名前を覚えたりするだけではありません。「いろいろな生きものと人間と一緒に生きていくために、どのように自然とかわかっているのかを子どもたちに考えてもらいたい」と話します。『ナチュラリックラブ』では、高学年の子が低学年の子の面倒をみたり、昆虫の採り方や名前を教えたりしています。このキャンプのメンバーも、にぎやかな大家族のようです。

「子どもたちは、鳥の巣を見つけたら静かにする、むやみに草花をとらない、ごみは持ち帰るなど、人間関係・優しさ・マナーを身につけます。実は自然を学んでいるのではなく、自然からいろいろなことを教えてもらっているのですよ」と、寒川さんは語ります。やがて、楽しいキャンプファイヤーが始まりました。炎を囲む子どもたちがオレンジ色に輝き、みんなの心がひとつになったとき、73歳の寒川さんの瞳は子どもたち以上に輝いていました。

みんなのな 場 広

防災チェック



～お年寄りや体の不自由な人を助けよう！～

子ども：お父さん、災害時要援護者って、どういう人たちの？

お父さん：大きな地震や災害が起きたとき、1人で避難できないお年寄りやいろいろな障害を持つ人、日本語がわからない外国人の人たちのことを言うんだよ！

子ども：じゃあ、大きな地震が起きたら、そういう人たちはどうするの？

お父さん：災害が起きたら、1人で避難できない人たちは、近所の人たちが力をあわせて避

難できるようにすることが大切なんだよ。そのために、もっと近所の人と仲良くしなくちゃいけないね。

子ども：今度、隣に住んでいる、おじいちゃんとおばあちゃんのところへ、「大きな地震が起きたら、僕が手伝いに来るから一緒に避難しようね」と話して行ってくるよ！

◎近年の地震や水害などで多くの災害時要援護者の方が、被害にあわれました。日ごろからご近所の交流、地域の連帯が大切です。問い合わせ 危機管理課(☎2998-9399・FAX2998-9042)



初めての海外旅行
中新井・高橋 祥子
初めて娘夫婦の住む海外に旅行をしたときのことです。まず、成田空港から緊張が始まりました。手荷物検査はご、チケットの窓口は...。時間はたっぷりあるのに、早々と出国手続きを済ませて、免税店もあまり見ずにゲートの入口に待機しました。無事に着いて、娘夫婦が私を見つけてくれるように祈りながら、入国カードはうまく書けるだろうか等々、心配の連続でした。無事に帰国して、家に帰ってから、伏兵が待っていました。緊張が続いたせいか、帯状疱疹にかかってしまいました、つら

誰でてもイイ
緊張するとき
テーマ



孫の運動会に下ドキ
荒幡・久保田 チイ子
小学生の孫の運動会の日、まるで自分のことのようにそわそわします。会場で、徒競走に出場する孫の姿を見つけると、胸が高鳴ります。先生の、「よい」の声を聞くときには、胸の鼓動が隣の人の聞こえるかと思うほど激しくなります。また、さらばやかな衣装を身にまとい、みんなで踊りを披露するときも、一生懸命に踊っている姿を見て、ミスをしてしまわないかと、ハラハラドキドキです。無事に終わるとホッとして、「頑張ったね！良かったよ」と声をかけながら涙腺がゆるんでしまいます。こんな緊張も、あと何年あるかしら...

今回のテーマは「最近、感動したこと」です

着陸の瞬間
松郷・石原 晃子
海外での航空機事故のニュースが流れている中、今年も北海道に行くことになりました。私は、飛行機が苦手、いまだに緊張してしまいます。初めて息子たちと空の旅をしたときのことです。小さい息子たちは緊張感を紛らわすためか、私の日傘に抱きついていたり、お互いの足をつかみ合ったりしていました。笑って見ていましたが、その気持ちはよく分かるのです。着陸時は、特に緊張します。耳は痛くなり、着陸の瞬間には、思わず手足に力が入ります。しばらくして周りを見ると、みんなホッとしているように見えます。緊張していたのは私だけではないのだですね。空の安全を、本心から祈ります。

「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集 ▶ はがきに300字以内 ▶ 文章は添削あり ▶ 掲載者には記念品を進呈 ▶ 次回のテーマは「最近、感動したこと」 ▶ 締め切りは10月7日（金）必書 ▶ 住所・氏名・年齢・電話番号を明記 ▶ 送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課 ▶ 「みんなの広場」係 ▶ Eメール（アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。